

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 7 年 6 月 5 日(2025.6.5)

【公開番号】特開 2024-31457(P2024-31457A)
【公開日】令和 6 年 3 月 7 日(2024.3.7)
【年通号数】公開公報(特許)2024-043
【出願番号】特願 2022-135016(P2022-135016)
【国際特許分類】

A 6 1 B 1/00(2006.01)

10

G 0 2 B 23/24(2006.01)

【F I】

A 6 1 B 1/00 7 1 1

G 0 2 B 23/24 A

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 5 月 28 日(2025.5.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

内視鏡操作部の長手軸方向における一方側に設けられた把持部と、

前記長手軸方向における前記一方側とは反対側となる他方側に設けられた操作部本体と

、
前記操作部本体の一側面に配置された湾曲操作ノブと、

前記操作部本体の前記一側面とは反対側の他側面に設けられたユニバーサルケーブル接続部と、

前記把持部を把持した操作者の親指が届く範囲に設けられた操作スイッチであって、前記操作部本体において前記一側面と前記他側面との間に位置するスイッチ配置面の収容凹部内に収容され、前記長手軸方向に揺動可能に構成された操作スイッチと、
を備え、

30

前記スイッチ配置面に対向する側から見た場合に、前記操作スイッチが操作されていない状態において、前記操作スイッチの頂部における前記長手軸方向の位置は、前記ユニバーサルケーブル接続部の中心位置よりも前記他方側である、

内視鏡操作部。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

40

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の一態様によれば、内視鏡操作部は、内視鏡操作部の長手軸方向における一方側に設けられた把持部と、長手軸方向における一方側とは反対側となる他方側に設けられた操作部本体と、操作部本体の一側面に配置された湾曲操作ノブと、操作部本体の一側面とは反対側の他側面に設けられたユニバーサルケーブル接続部と、把持部を把持した操作者の親指が届く範囲に設けられた操作スイッチであって、操作部本体において一側面と他側面との間に位置するスイッチ配置面の収容凹部内に収容され、長手軸方向に揺動可能に構成された操作スイッチと、を備え、スイッチ配置面に対向する側から見た場合に、操作ス

50

スイッチが操作されていない状態において、操作スイッチの頂部における長手軸方向の位置は、ユニバーサルケーブル接続部の中心位置よりも他方側である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

内視鏡操作部 18 は、操作者が把持し、内視鏡装置 2 の操作を実行するためのものである。図 3 乃至図 5 に示すように、内視鏡操作部 18 の長手軸方向 A x における一方側（図 3 において下方向）に設けられた把持部 19 と、長手軸方向 A x における一方側とは反対側となる他方側（図 3 において上方向）に設けられた操作部本体 20 と、を備える。操作部本体 20 は、第 1 操作部本体 51 と第 2 操作部本体 52 とを含んでいる。第 1 操作部本体 51 が、下方向に設けられた把持部 19 と接続される。第 2 操作部本体 52 が、第 1 操作部本体 51 の上方向において、第 1 操作部本体 51 と接続される。ここで「上方向」及び「下方向」の用語は、操作者が内視鏡操作部 18 を左手で把持し、一对の湾曲操作ノブ 29 を、操作者に対し向かって右側に配置して、後述するスイッチ配置面 73（図 3 及び図 6 参照）に対向する側から見た場合、左手の親指の側を「上方向」、左手の小指の側を「下方向」と定義される。

10

【手続補正 4】

20

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

図 3 及び図 5 に示すように、第 1 操作部本体 51 は湾曲操作ノブ配置面 71 とは反対側にユニバーサルケーブル接続面 72（本発明の「他側面」に相当）を備えている。ユニバーサルケーブル接続面 72 は、長手軸方向 A x に直交する方向であって、湾曲操作ノブ配置面 71 とは反対方向を向いた側面であり、このユニバーサルケーブル接続面 72 にユニバーサルケーブル接続部 54 が設けられる。ユニバーサルケーブル 21 の基端側が、ユニバーサルケーブル接続部 54 に接続される。ユニバーサルケーブル接続面 72 には、ユニバーサルケーブル接続面 72 から離間する方向に突出する導出部分 59 が設けられ、ユニバーサルケーブル接続部 54 は、この導出部分 59 に設けられている。

30

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

実施形態では、操作スイッチ 56 が収容凹部 57 に収容されている。したがって、図 4 に示すように、操作スイッチ 56 が操作されていない状態で、スイッチ配置面 73 から操作スイッチ 56 の頂部 58 までの距離 L を小さくでき、また、頂部 58 をスイッチ配置面 73 より下側にも配置、すなわち、外側に露出させないこともできる。この距離 L を小さくすることにより、図 6 に示すように、操作者が手指で一对の湾曲操作ノブ 29 を操作する際、又は、操作者が親指 77 をスイッチ 35 と一对の湾曲操作ノブ 29 と間を移動させる際、操作者の親指 77 が操作スイッチ 56 と干渉することを抑制できる。干渉を回避することで、操作スイッチ 56 に対するユーザビリティを向上できる。

40